1993
2
VOL.391

東北電力

特集　大きな課題達成に向かって
— ルポ・原子力立地の第一線は，今 —



現地調査に向かう途中，お客さまと言葉を交わす社員
（山形県村山市）

表紙の写真

小雪の散らつく中，電柱移転の現地調査に向かう天童営業所・村山サービスセンター所員，丸山さん（中央），高橋さん（右）。暖冬といえども，ここ村山市大高根地区は山がすぐそこまで迫り，あたり一面の銀世界だ。



路肩には雪が２ｍ近くも積もっている。



特産のサクランボも春まで深い眠りについている。



アンペア変更に伴うメーターの検査風景。寒さも吹き飛ばす笑顔だ。



村山サービスセンター　オールキャスト

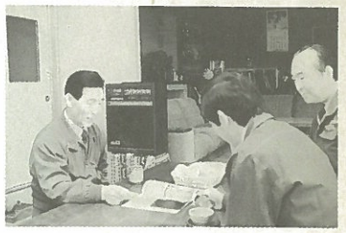
（左から小原さん，前野さん，黒田さん，高橋さん，清和所長，丸山さん）



窓口で臨時工事の申し込みを受け付ける。

CONTENTS
1993-2
Number391

2 **特集**　大きな課題達成に向かって
—ルポ・原子力立地の第一線は，今—



◆東通原子力準備事務所
◆浪江・小高地点原子力準備事務所
◆巻原子力建設準備本部
◆女川原子力発電所建設所

12　シリーズ
CM制作の現場から㉒
新キャラクター登場

18　**マンスリーNEWS**

24　**GROUPウォッチング**
東北緑化環境保全株式会社

26　シリーズ
PAL奮闘記⑧ ～福島編～

28　**トピックス**
規程整備推進事務局だより
わが室部の会社規程の見直し〔用地部〕

30　掲示板
● ２月は省エネルギー月間
● 当社が提供するテレビ、ラジオ番組

31　**コーヒーブレイク**
男の子は妻をめとるまで
我が子であり、女の子は終生我が子である

32　定年退職者の方のご紹介
～長い間ありがとうございました～

35　気ままにおしゃべり　FREE TALKING

■平成４年12月　電力需給実績

特集

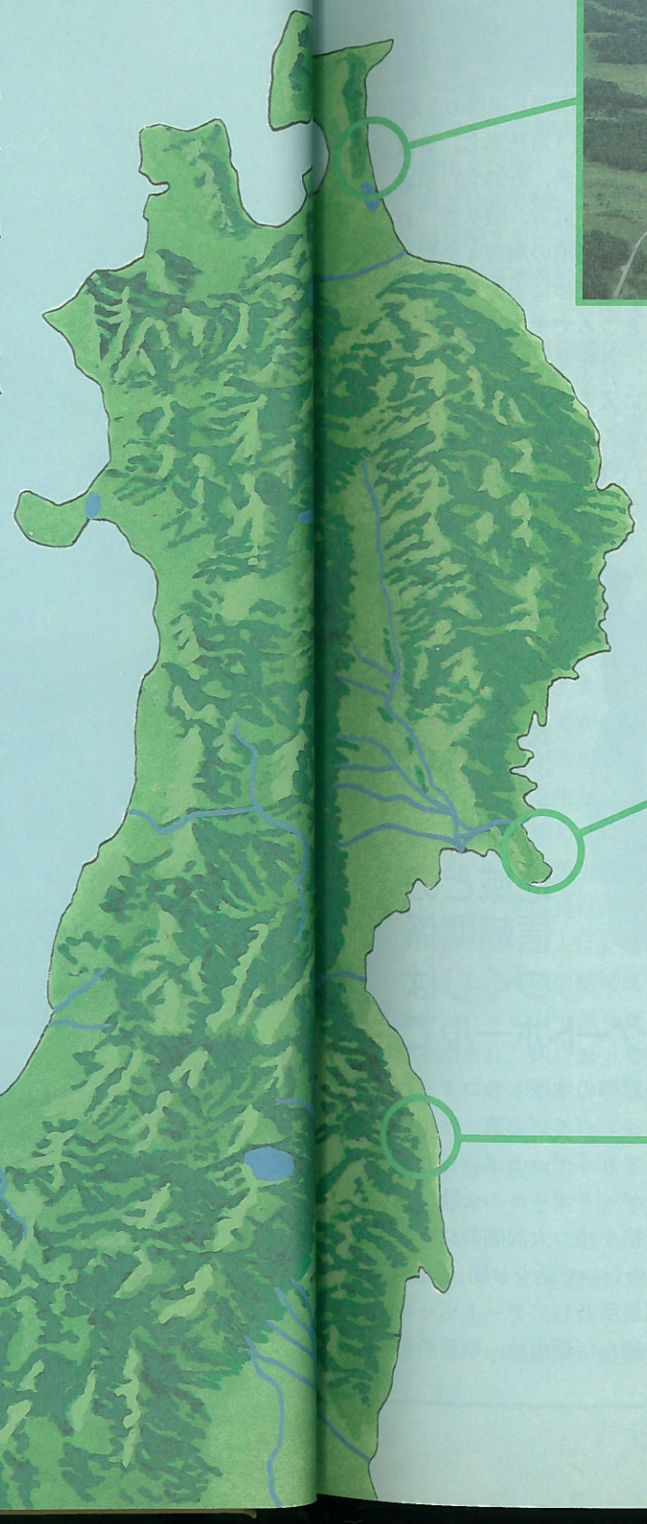
大きな課題達成に向かって

ルポ 原子力立地の第一線は、今

当社は，中・長期的な需給動向を踏まえ，当面の最重要課題を「需給の安定を目指した電源開発・系統立地と広域運営の強力な推進」として，平成５年経営課題の力点の１番目に掲げました。

そこで，全従業員にこの重要課題の理解を深めていただくため，２回にわたって特集いたします。

１回目は電源立地を取り上げ，その中から原子力立地地点で立地業務に励んでいる現地の様子をお伝えします。



巻原子力発電所建設予定地



東通原子力発電所建設予定地



女川原子力発電所2号機建設現場



浪江・小高原子力発電所建設予定地



特集

東通原子力準備事務所



事務所のみなさんで元気いっぱいに〝はいポーズ〟。後ろには当面の最重点課題のスローガンが大きく張り出され，意気込みが感じられる。

東通原子力準備事務所を訪れたのは１月中旬の，この季節にしては珍しく晴れた穏やかな日であった。事務所は人の出入りが頻繁で活気に満ちていた。

事務所では独古副調査役と本間副長がにこやかに出迎えてくれた。

思ったより雪が少ないので尋ねてみると



「原準所長杯」親善試合で賞品を授与する大井所長。後ろに整列し，盛んに拍手するオバチャン達。和気あいあいの雰囲気が感じられます。

「この地域は下北半島のマサカリの付け根に位置しており，交通の不便な過疎地です。ここ数年，比較的雪が少ないものの冬の寒さは厳しいものがあり，夏場はヤマセの影響で肌寒い日も多く，ストーブが必要な日もあるんですよ」と本間副長が話してくれたが，夏場にストーブが必要との話にビックリした。

続いて，独古副調査役から現状についての話があり，「この地点は当社と東京電力が共同で立地を進めているもので，昭和57年５月に正式に漁業補償交渉の申し入れを行いましたが，地先漁協との漁業補償交渉が難航し，昨年８月の白糠・小田野沢，地先２漁協の臨時総会で２度目の知事斡旋内容が，ようやく受け入れられました。それを受けて漁業補償協定書の締結が行われ，建設計画が大きく前進しましたが，さらに取り組まなければならない課題も山積しています。



いつも笑顔を絶やさない独古副調査役ですが，あらたまった雰囲気で，ちょっとよそ行きの顔をしたところをパチリ。お忙しいところあちこちご案内して頂きました。

現在は関係部門と連携のうえ，所長以下全員（当社25名，東電２名，職員７名，計34名）が老部川内水面，尻労，猿ケ森，および六ケ所村泊の周辺４漁協との漁業補償交渉に全力を傾注しているところです。

また，今年４月からは環境補足調査に入る予定であり，関係漁協からの同意取り付け（１/25～２/２に関係全漁協の同意取り付けが完了）が緊急課題として出てきており，さらに気を引き締めていかなければならない状況にあります」と説明いただいた。

地域との信頼関係づくりはゲートボールで

東通原準の地域とのコミュニケーションパイプの第一は，何と言っても「ゲートボール」である。ゲートボールの公認審判員の資格を持つ大沢副長にも入っていただいて話をお聞きした。

「事務所としてゲートボールに取り組んだ理由は，事務所員が比較的年配者が多い？ことや，地先の白糠部落がもともとゲートボールが盛んであることなどから，事務所の敷地内にコートを作り，従業員の厚生施設も兼ねて地域に解放することとしたわけです」と独古副調査役がその理由を説明してくれた。

現在は年２回，地元８チームと事務所２チームで［東通原子力準備事務所長杯］の親善試合を行っており，ゲートボールは地域住民との信頼関係の強化に大きく貢献している。

また大沢副長から「企業市民活動にも生かそうということから，有志でゲートボールの公認審判員の資格を取って，各地で行われる試合の審判やチームの指導を行っており，現在，事務所内には私も含めて７名の公認審判員がいます」と日常の取り組みが紹介されたが，その真剣さには頭の下がる思いがした。

個人の趣味を生かして地域とのふれあいを深めている人たちもいる。独古副調査役から「ここにいる本間副長は，ビデオカメラ歴が長く玄人はだしの腕前が買われ，地域の結婚式やさまざまな行事に引っ張りだこで撮影を頼まれ，休日返上で東奔西走しているんですよ」と紹介されたが，本間副長は「いや，これは自分の趣味でやっているんですから…」とあくまで控え目であった。

また，サケの定置網の水揚げ，コンブ漁，さらにはサケのふ化場など，地場産業が最盛期を迎えた時期などには，所員が積極的に手伝いに行き，一緒に作業をしながら地元に溶け込む努力をしており，地域の信頼も日に日に厚くなってきているようだ。



「お船霊まつり（通称：〝船祝い〟）」に出席し，乾杯の音頭をとる大井所長。地域との一体感が伝わってきます。今年は所員で手分けをして約100個所に出席した。

気さくな組合長

独古副調査役と本間副長の案内で青森県内一の規模を誇る老部川内水面漁業協同組合のサケふ化場を見学させて頂いた。

ふ化場の作業は最盛期に入っており，水槽には受精卵がいっぱいになっていてふ化を待つばかりの状態だった。

相内組合長から，ここのふ化場から県内各地のふ化場に受精卵などを出荷していることや，故郷の川に戻ってくるサケの神秘的な行動など，興味深い話を聞かせて頂いたが，事務所の人たちとは本当に打ち解けた雰囲気で話しており，これも長い間の信頼関係の積み重ねではないかと感じた。

なお，相内組合長は今年２月に電源地域振興財団主催の「海外における地域共生型発電所に関する調査」に参加し，ヨーロッパ各地を視察してくることになっており，事務所の永井課長も同行する。東通原子力発電所計画の具体的進展に伴って，共生型の在り方などが論議されてくるものと思われる。



老部川内水面漁業協同組合の相内組合長（右）と談笑する独古副調査役。相内組合長は２月にヨーロッパ視察を控え，胴巻が必要か，ミソや梅干しはどうかなど，もっぱら携帯品の中身の話に花を咲かせていた。



老部寮での夕食風景

「東通原子力準備事務所」はいま，厳しい環境の中で，所内外とのコミュニケーションを支えにして，当面の重要課題の解決に向けて全所員一丸となって取り組んでいるところである。

みなさんの努力が確実に花開くことを願い，事務所を後にした。

特集

浪江・小高地点原子力準備事務所



平均年齢43歳とは思えないほど，若々しいポーズをとるみなさん。（前列中央が奥田所長）



事務所に着いたのは昼休み時間で，所員のみなさんは，外に出て「テニポン」（現地所員が名付けたテニスとピンポンの合いの子）で寒さを吹き飛ばしていた。

仙台駅から常磐線で南へ特急で約１時間，福島県浜通りに位置する浪江町・小高町は，年間を通じて温暖な気候で降雪も２～３回程度，積もることはほとんどないという。

取材当日の天気は快晴で海沿い特有の明るい日差しが照りつけていたが，身が引き締まるような寒さだった。

浪江駅で下車した時に一緒に降りた人はごくわずかで，この寒さの中，迎えてくれた西山課長は，改札を通る人数を確認しながら「少しでも多くこの地で降りてもらい，活気あふれる地域になるのも私たちの願いの一つなんです。春は山菜採り，夏は釣り，秋は紅葉，冬は狩猟と四季を通じて楽しめる高瀬川渓谷や東北一の規模を誇る泉田川のサケのやな場など，海と山に包まれたこの土地の自然の恵みはさまざまな形で人と結びついているんです」と，この土地の魅力を話してくれた。

目標に向かって結集する力（個性）

駅から車で10分ほどで事務所に到着。玄関先にある珍しい野草に目が止まった。これは西山課長が丹精を込めて育てたものだ。「この野草を事務所に置くことで，野草に興味のある地元の方々との交流が深まればと思っているんです。私たちの事務所では２か月に１度『おたより』というコミュニケーション用のチラシを作成して，一軒一軒所員が手渡ししているんです。所員一人ひとりの紹介や地域の出来事など，身近な話題を所員が手づくりで伝えているんです」発行してから４号になるが，すでにこの『おたより』が届くのを楽しみにしているファンもいるという。事務所に野草を置いていることなども紹介しているそうだ。



所員手づくりのコミュニケーション紙「おたより」

浪江町町議会は昭和42年に原発誘致決議をしており，小高町町議会が48年に誘致を決議している。「用地の買収の仕事は昭和45年から進めていますが，用地買収の同意を得ているのは全地権者の約87％。用地取得の早期解決が当面の課題」だという。

用地取得とひと口に言っても，その仕事はさまざまで，立地業務の幅の広さを思い知らされたような感じがした。

たとえば，発電所の用地内には，約７万本の松の木があり，その約２割が松くい虫の被害を受けている。このまま放置した場合，３年後にはほとんどの松の木が被害を受けることになるという。西山課長は「被害を食い止めるには薬剤散布や薬剤注入，最悪のケースでは伐採し焼却する以外にないんです。この松の木を守ることは，地権者の方々との信頼関係を高めることや，当社においても用地内の緑化対策上必要なことなのです」と，そのメリットを語る。そして，どこまでも続く青い海原，白くくだける海岸線と背後の緑との見事なまでのこの土地の風景を何としても守っていきたいと言葉を強くする。

また，用地買収に同意してくれた方々を対象にした農業先進地の見学会を行ったり，墓地の移転に伴って，良い墓のつくり方のアドバイスなども行っている。「ここに来るまでは全然知らなかったことを勉強する機会が増え，墓地の担当者なんかは『住職』というあだ名で呼ばれているんですよ」と笑いながら話す。



事務所から20キロほど離れた原町市の自宅から通勤しているという西山課長。趣味は盆栽や山歩きといたって健康的。が，最近は周囲の影響でギャンブルにも手を出し始めたとか…。



地元の方とお会いする時は，時間や場所，状況などを十分に考え合わせる。この日は，お忙しい中を南棚塩地区区長の鈴木さん（写真左）のお宅にお邪魔した。撮影させていただいた後にごちそうになった，鈴木さん宅特製の漬物の味（白菜の間に生さんまをはさんだピリッとしたキムチ味）が忘れられない。



所員24人のうち10人が寮に入っている。夕食に出る山海の新鮮な材料でつくった料理は，すべて寮母の酒井さんの手づくり。寮費以上においしいものが食べられると好評だ。勧められるままにいただいた夕食は評判通りで，憶面も無くおかわりまでしてしまった。酒井さん，ごちそうさまでした。

地元の方に好評な『おたより』を進んでつくりあげる所員や自分が得意な『うどん料理』で地元の方と交流をしようとする所員，平均年齢43歳という経験豊富で味のある浪江・小高地点の所員たちの活動からは，目標に向かって，それぞれの得意分野，個性を一つに結集している印象が感じられた。

信頼関係を太く、そして数多くつなげるために

発電所建設予定用地の周辺を車で案内されながら，西山課長が対向車がすれ違うごとにスピードを落とし，会釈をしているのに気付いた。「私たち一人ひとりのちょっとした行動がこれまで築きあげてきた信頼関係を崩してしまいます。築かれた地盤に安住することなく，常に信頼というパイプが太く，数多くつながっていくための努力をしていかなければなりません。そして，地元の方々から，この地に原子力発電所をつくって良かったと言われるようなものにしたいとここにいる全所員が痛切に感じているのです」と語る。20数年という時の経過とともに，地元では世代交代の時期にきている。浪江・小高地点では，こうした次世代の方々からも原子力についてご理解をいただき，これまで築いてきた信頼関係をより強くしていくための努力が続けられている。

最後に，ぜひ社員の暮らしぶりも取材したいと思って寮を訪ねた。この日も地元の集まりに顔を出さなくてはと，夕食もほどほどに出掛けていく方がいて，３人だけの寂しいものになったが，こうした昼夜を分かたぬ一日一日の積み重ねがあってこそ，地元のみなさんとの信頼のかけ橋がつくられていくのだろう。

この浪江の地に新たな原子力の灯をともすために，強い意志と信念を持って明るい笑顔で接してくれた所員のみなさんの一層の活躍を期待したい。

巻原子力建設準備本部

新潟というと雪深いイメージを持っていたが，「燕三条駅」で下車すると思いのほか，気温も高く，雨が降り始めていた。ここから車で30分ほどしたところが西蒲原郡の経済・文化・政治の中心，巻町である。巻町は県下でも有数の穀倉地帯で，その味日本一といわれる「コシヒカリ」の産地でもある。取材したのは１月中旬で，稲穂のない田んぼは地平線まで広がっていた。

課題解決に向けて総合力を発揮

建設準備本部では北村主査が，明るい笑顔で迎えてくれた。

「もともとこの巻町近辺は降雪量も少なく，過ごしやすいところなんです。新幹線や高速道路をはじめ，交通機関の整備も大変行き届いています。海の幸にも恵まれているし，お酒もおいしいですしね」北村さんはここから20キロ離れた新潟市の自宅から通っている。

「巻地点は，当社が昭和46年５月に原子力発電所の立地地点にすることを公表したんです。その後さまざまな経過をたどって，昭和57年１月に通産大臣に『原子炉設置許可申請書』を提出，国は直ちに安全審査に入ったんですが，一部残された用地問題が解決されていないことから，59年に審査が中断されたままになっています」という。

以来，サイト内の一部の民有地の取得と墓石移転問題の早期解決が巻地点固有の課題となっている。

昨年の夏に，民有地の一部が解決したが，まだまだ厳しい道のりが待ち受けている。立地公表当初からの反対派が今でも活動を続けている。



巻営業所と一緒に参加した昨年の夏祭り。着飾った作業車を先頭に，華麗な舞い(？)で祭りを盛り上げた。

一方，墓石移転の問題については，墓地が町有地となっていることから，巻町が墓石の整理を進めており，当面これらの推移を見ながら対応していくことにしているという。

地権者の権利意識の多様化などに伴って，用地取得を取り巻く環境は厳しさを増しており，取材当日も地元や行政関係者の方との接触のため，社員はほとんどが出掛けていて，課題の解決のため文字通り総合力を発揮した取り組みが行われている。

常に誠意と情熱を傾けて

立地業務に携わっている社員たちは，所期の目的を達成するため，考えられるあらゆる対策を講じているわけだが，その中でも特に地元の関係者の方々との接触はどういう点に配慮しているのだろうか。

ここ巻地点に通算７年の勤務になるというベテランの北村主査は，「まずは，その土地の風土やそこに暮らす人たちの気質を理解することが大切ですね。


「巻原子力懇談会」の方々とは，施設見学会をはじめ講演会や研修会を実施しながら，エネルギー問題に関する研さんを積んでいる。昨年の夏は動力炉・核燃料開発事業団東海事業所への施設見学会を実施した。


サイト内には当社が氏子総代になっている「角海神社」がある。これは，１号機の建設予定地内にあったものを移設したもので，電力会社が氏子総代になっている神社は日本中でここだけかも？

それと，仕事ばかりではなく地元の祭りや行事に積極的に参加するのを初め，趣味などによって自分自身の行動の幅を広げて人間性を高めていくことが必要だと思います。そして，誠心誠意，常に地域の方々の立場を考えながらのぞむよう，対応には気を配っています。私自身が地域の中に溶け込むということを考えています」と語る。

地元で開かれるさまざまな催しの際には，巻営業所とも常に連携をとって行動している。奇抜なアイディアなどを駆使して行事を盛り上げてくれる頼りになる巻営業所とは，毎月，業務全般にわたる打ち合わせを行い意志の疎通をはかっているという。

組織的な対策については，今まで巻地点の推進団体の要であった二つの団体，「巻原子力発電推進連絡協議会」と「巻エネルギー町民懇談会」が一昨年の８月に統合され，新しく「巻原子力懇談会」が結成されている。

同懇談会では，エネルギー・原子力問題に対する研修会，講演会や施設見学会の実施などを通じて研さんを行う一方，地域開発活動への協力などにも取り組み，立地推進への大きな原動力となっている。また，建設業協会，商工会，農協，漁協，区長会などの諸団体をはじめ個人など，会員数は現在約1,700名を数え，着実に推進基盤の強化がはかられている。

「私たちが今いるポジションは，直接地域の方と真剣に話ができるところでもあると思うんです。ですから当社に対する質問にも十分対応できるよう社内の情報には常に目を向け，当社のＰＲに努めることも必要だと考えています」常に地域の動向や社内情勢にアンテナを高くするとともに，課題解決のために必要な知識の習得に努めているという前向きな姿勢があってこそ初めて地元との信頼関係の基盤ができるのだと北村主査の話を聞いていて痛感した。

「地元の方々に対しては，常に誠意を持って話し合うように心掛け，原子力発電への理解を深めてもらってぜひ立地推進にご協力いただけるよう細心の配慮をしながら対応していきたいと思います。そして１日も早い実現に向けて全力をあげて取り組んでいきます」と今後の決意を語ってくれた。

現地を訪問し，厳しい環境下で，常にまごころを持ちながら情熱を傾けて地元の対応に追われるみなさんの生の姿に触れ，言葉では表現しきれない第一線現場の仕事の難しさが少しは実感できたような気がした。

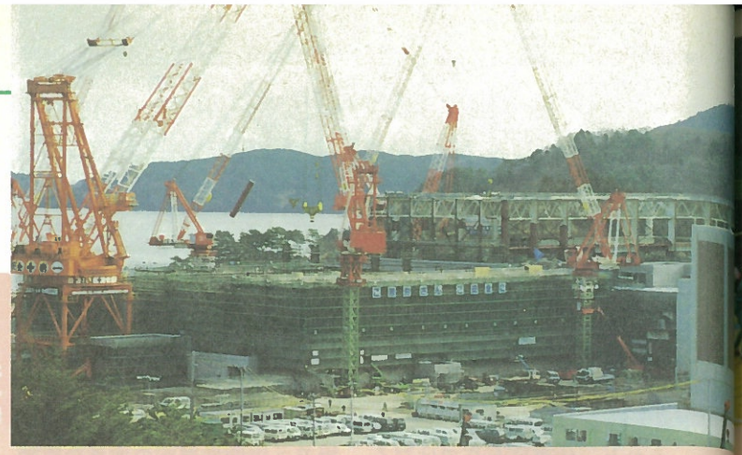
そして，立地地点に勤める人たちばかりではなく，自分自身が担当している業務でも常に第一線で働く仲間たちのことを念頭に置いた仕事の展開に努めていく必要があることを再認識して，巻の地を後にした。


取材の合間に外部関係者との対応について塚田課長と打ち合わせをする北村主査。


年とともに体力が落ちぎみだという北村主査。最近始めたゴルフでひそかに腕を磨く。まず手始めに，所内コンペの〝本部長杯〟に照準を合わせているようだ。

特集

女川原子力発電所建設所



順調に建設工事が進む女川原子力発電所２号機

2号機の建設工事たけなわ

女川原子力発電所は，宮城県の東端，太平洋に突出する牡鹿半島の東側にあり，豊かな緑に囲まれ，目の前にはコバルトブルーの海が広がる風光明媚な環境にある発電所としても知られている。当社初の原子力発電所として誕生した１号機は昭和59年６月に営業運転を開始して以来，安定した電力供給を続けている。この１号機の隣では，当社にとって２基目となる２号機が平成元年８月に着工され，平成７年７月の運転開始を目指して，順調に工事が進められており，平成４年12月末の工事進ちょく率は65.7%になっている。

建設現場では，数基のツートンカラーの大型クレーンが，たくましく動く中，各建屋において配管工事や機器の据え付け工事が行われており，作業員が厳しい寒さにもめげず元気に働いている。

着工以降，発電所本館基礎などの掘削工事が行われ，平成３年２月に原子炉建屋基盤検査を終了，同年10月に原子炉格納容器の組み立てを開始，平成４年４月に原子炉格納容器の耐圧漏洩試験を完了している。

今年の６月にはいよいよ原子炉圧力容器据え付け作業が開始され，来年の11月には燃料装荷が行われる予定である。

２号機の建設工事は今年，最盛期を迎えるが，建設所員，作業関係者すべての人たちが安全作業の徹底を心に刻みつけて日夜頑張っている。

揺るぎない信頼関係づくりに全力投球

この女川には，１号機の運転管理を行う発電所員と２号機の建設に携わる建設所員がおり，当社の原子力発電所の立地に先鞭をつけたという自信と誇りを胸に，安全で信頼される原子力発電所をつくるため懸命の努力を続けている。

発電所・建設所では，昨年，地元のスポーツ振興に少しでも役立てばという趣旨から，女川・牡鹿の両町において，各スポーツ団体に協賛し「家庭バレーボール大会」「ソフトボール大会」「スポーツ少年団マラソン大会」の３種目に東北電力杯を提供したほか，審判員や準備員など，運営自体にも積極的に協力した。今回初めての試みであったが，３種目いずれも参加者や関係者からは好評で今後も地元の方々とのふれあいを深めていく一つのイベントとして続けていくことにしているという。

また，従来から手芸やパッチワーク，書道といったサークル活動にも所員の奥さんや子供たちも含めて参加するなど，文字通り家族ぐるみのおつきあいをしているという。

こうして肩肘を張らず，むしろ自然体で地元の方々と一つになってふれあうというごく当たり前のことが，課題を解決するためには大切なことである。

一つの大きな目標を目指すとき，自分の周りに同じ目標に挑む仲間たちの顔は多ければ多いほど張り合いがある。共に歩み続ける仲間がいるからこそ頑張れるのだ。

先輩たちが積み重ねてきたあらゆる努力を財産として引き継いできた２号機の建設所員は，発電所員，そして家族という心強い仲間たちと手を携え，揺るぎのない地元の方々との信頼関係を築きあげるために全力投球を続けている。





女川町で行われた「家庭バレーボール大会」（写真上）と牡鹿町で行われた「スポーツ少年団マラソン大会」（写真右）

取材を終えて

厳しい環境の中で困難な課題に真正面から立ち向かいながら，一歩一歩着実な歩みを重ねている現地事務所のみなさんは，重圧にもめげず思いのほか明るかった。

取材する側としては「ホッ」としたが，単身赴任者も多いことから，言うに言われないいろいろな悩みも少なからずあるのではないかと思う。

ＰＡを推進していくうえで肝心なのは，自分自身が原子力を推進していくのだという強い意志と信念を持つことだと思うが，難問解決にあたり気も休まる間もない立地地点の人たちの原動力となるのは，「目標に向かって共に歩む仲間がいる」という極めて人間的な絆を大事にする気持ちである。

取材に対応してくれた方の「全従業員のバックアップが私たちの励みなんですよ」という一言が印象深かった。

CM制作の現場から②

3回シリーズ

今回は、広報部で現在制作中のコーポレートソング「瞳は未来を映してる」「君は風の中に」をコマーシャルソングとして使用するCMについて、制作のねらいや訴求内容を中心にお伝えします。

新キャラクター登場

今回のCMから新キャラクターをデビューさせることにしました。それが次のページに紹介しているキャラクターです。愛称は『てくてく』。

より親しみやすい，より若々しい活気にあふれた東北電力。そんなイメージを託して，かわいくて元気いっぱい，ちょっとお茶目でお人好しな『てくてく』は生まれました。

『てくてく』はご覧のとおり鳥がモチーフです。でも，飛ぶことはできません。沖縄のヤンバルクイナやニュージーランドのキウイ，カカポ，はたまたダチョウや大昔のレア…と，飛べないがために環境の変化に適応しきれず絶滅しつつある鳥。『てくてく』は，そんな鳥たちの象徴として生まれた架空の鳥であり，また自然や地球環境へのマインド＝高い意識を培っていこうとしている東北電力の企業姿勢を込めたキャラクターでもあります。

『てくてく』の羽の色はブルーです。人間にとって，社会にとって，地球にとって，そして東北電力にとって，ともに幸福を探しに行く青い鳥です。

愛称も，企業として「一歩一歩，着実に進化していきたい」という願いを込めました。

そんな鳥が元気に今日を暮らし，明るい明日を目指す。生まれ変わろうとしている東北電力。この会社が一段と若々しく，親しみやすい存在になっていく，そのシンボルこそが『てくてく』なのです。

企業イメージの脱皮がねらい

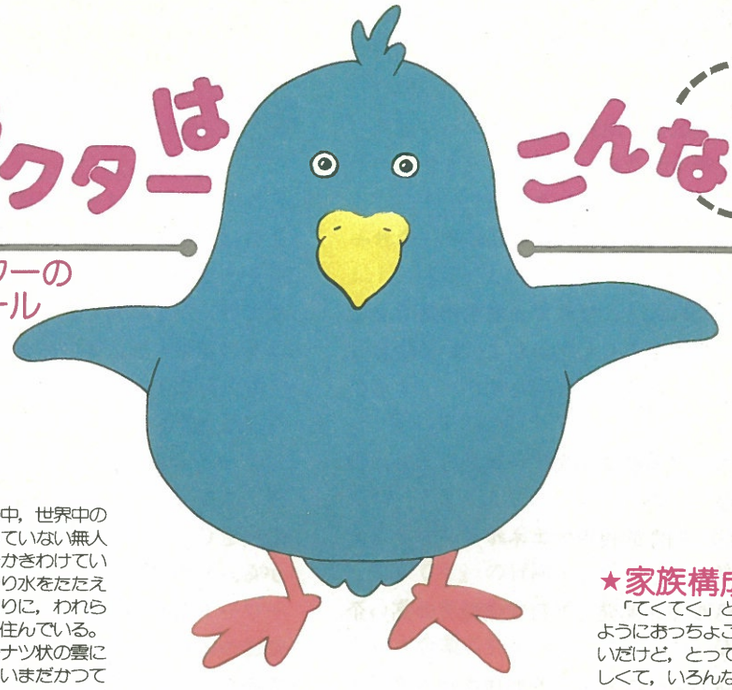
当社の企業イメージは，意識調査の結果にもみられるように「明るい」「おもしろみのある」「センスのよい」「若々しい」「親しみのある」「暖かみのある」といったイメージがどうしても低いようです。

そこで，今回のCM制作にあたっては，当社が２１世紀に向けて着実に企業変革を遂げていくためにも，こうした欠けているイメージを醸成し，とかく「堅い」とみられている当社の企業イメージを何とか“脱皮”していきたいという考えのもとに企画を進めることにしました。

親近感醸成へのアプローチ

二つのコーポレートソングのイメージを大切にしながら，どう使い分けていったら良いのか。曲のイメージや歌詞を優先し表現のまったく違った二つのCMを作るべきか，それとも二つの曲をうまく

新キャラクターはこんな鳥



■キャラクターのプロフィール

★生息地

○大きな海のど真ん中，世界中のどんな地図にも載っていない無人島がある。深い森をかきわけていくと，やがてひっそり水をたたえる湖が…。そのほとりに，われらが「てくてく」たちは住んでいる。島はいつだってドーナツ状の雲に囲まれているから，いまだかつて人間に見つかったことがない。だれも知らないから，当然世界中のどんな動物図鑑にも「てくてく」たちのことは書かれていない。

○住んでいる家はドーム状，土と草，木の枝などでできている。中に入ってみると意外に広いので驚かされる。夏は涼しく，冬は暖かい，とっても居心地のいい家である。

★すがたカタチ

○「てくてく」たちの一番の特徴は，その未発達の羽。今まで一度も外敵に襲われることなく，のんびり暮らしてきたので，発達する必要がなかったのだ。だから，もし今，突然海を越えて野蛮な生き物がやってきたりしたら，彼らはひとたまりもないかも知れない。

○「てくてく」たちの第二の特徴は，その色である。美しくも心安らぐ，なぜかとても懐かしいようなブルー。でも彼らは，生まれた時からその色をしているわけではない。生まれたばかりのヒナ鳥は，真っ白。それが成長するにつれ，海や空のブルーを吸いこんで，だんだん見事なアースカラーへと変化していくのである。

★年齢

○彼らの寿命も年齢も不詳。けれど「てくてく」の年は，人間でいうと８歳。ちょうど遊び盛り，いたずら盛りのころである。

★性格

太陽の光をいっぱいに浴びて，「てくてく」は底抜けに明るい性格に育った。少しおっちょこちょいで，いつも失敗ばかりしている。それでも失敗にめげず，冒険心は人一倍おう盛。チャレンジと驚きの連続で，楽しい毎日を送っている。

★家族構成

「てくてく」と同じようにおっちょこちょいだけど，とっても優しくて，いろんなことを教えてくれるパパ。

ママは，いつも元気な働き者。「てくてく」の家族はこの３人（羽）。でも実はもうすぐ二人目の子供が生まれるんだ。パパは男の子がいい，ママは女の子がいい，と言い合ってるけど，「てくてく」は一緒に遊べるならどっちだっていいと思っている。

★好きな食べ物

○一番の好物は，島でとれるヤイパパという名前の果物。ちょっとパパイヤに似ていて，とっても甘くておいしいんだ。でもご飯の前に食べると，ご飯が食べられなくなるからダメって，ママは言う。

○逆に，一番嫌いなのが魚。理由は小骨がノドに刺さるから。でもちゃんと食べないと大きくなれないから仕方なくガマンして食べている。

★言葉

「てくてく」たちの言葉は，彼ら独自の言葉で，世界中のどんな辞書にも載っていない。でも，なぜかあの世界共通語である『エスペラント語』にそっくりで，実は『エスペラント語』の方が「てくてく」たちの言葉をベースにしたらしいという，マコトしやかなうわさまで流れている。

★胸に秘めた「夢」

「てくてく」の夢は，カモメのように，いつの日か自分の羽で大空を飛ぶことである。あの海の向こうに，あの雲のかなたに，いったいどんな世界が広がっているんだろう。この島も大好きだけど，一度は見にいきたい。自分の羽で空をかけて，この目でしっかり見てみたい。それが「てくてく」の夢である。

結び付けて共通の表現をしていくべきか，判断の難しい問題を抱えながら「より身近で親しみやすい東北電力」というイメージ目標に向けてのアプローチが始まりました。

まず，企業広告ＣＭにおけるイメージ形成のあり方を整理するために，次のようないくつかの当社の理想像を掲げてみました。

- 人と地球にやさしい電気エネルギーをサービスする企業
- 常に新しいことに挑戦する風土のある企業
- 元気で生き生きした社員が多くいる企業
- 高品位な生活環境の実現をサポートする企業
- 供給エリアの産業・文化の発展とともに歩む企業
- 長期的，国際的視点でエネルギーをとらえる企業
- 新エネルギー開発など研究開発力の高い企業

そしてさらに，これらの理想像をバックボーンとした上で，当社の企業イメージとして獲得したい５つの要素を設定してみました。（図１参照）

なかでも，「Active（明るい，若々しい）」「Familiar(親切，あたたかい)」の二つの要素は，お客さまに「身近で親しみやすい企業」としてイメージしてもらうためにはベースになるものであり，また，意識調査の結果をみてもぜひ向上させたいイメージであることから，これら二つを訴求イメージと位置づけることにしました。

イメージ形成の統一をはかる

こうして，イメージ形成における基本的な考え方は整理されましたが，次に，２曲のコーポレートソングとイメージ目標とをどのように絡めていくかを検討しました。

その結果，曲のイメージや歌詞の内容等をみても，訴求イメージと位置づけた「Active」イメージは『瞳は未来を映してる』と，また「Familiar」イメージは『君は風の中に』とちょうどマッチしているのではないかということで，二つの曲をＣＭの訴求イメージとうまく結び付けながら，二つのイメージを統合していくようなキーワードと共通のキャラクターを使用することで二つのＣＭの一貫性をつくりだし，『より身近で親しみやすい東北電力』という統一した企業イメージを訴求することとしました。(図2参照)

若い層を意識したCM

次は，ＣＭの訴求ターゲットをどこに置くかという問題です。

当社の場合，電気という商品についていえば老若男女を問わず電気をお使いいただくすべての方々がお客さまです。したがって，ＣＭなどの場合も，〝少しでも多くのお客さまにものを言いたい〟という意識が働いてターゲットの絞り込みができずに，特徴のないものを作ってしまいがちです。

そこで，今回のＣＭづくりにおいては，若年主婦，子供，ヤングサラリーマン・ＯＬ，学生といった「若い層」を中心ターゲットとして意識することとしました。〔図３参照〕

というのは，電気製品の普及拡大により年齢の若い層ほど多くの電気製品に囲まれて生活してきていることや，昔に比べ停電回数も飛躍的に減少してきていることなどからも，こうした若い層ほど「電気はあって当たり前」という感覚が強いと思われ，また電力会社との接触機会の減少などから当社に対する明確なイメージも持ちにくい層だと思われるからです。

また，こうした若い層ほどテレビＣＭの影響を受けやすく，テレビという媒体を使って企業がものを言う対象としては効果的な層といえるからです。

次の世代をリードしていく方々に当社に対する良好な企業イメージを持ってもらうことは，21世紀に向けてさまざまな課題を抱える当社が，一つひとつ課題を解決していく上で非常に重要なことではないでしょうか。

CMのストーリー

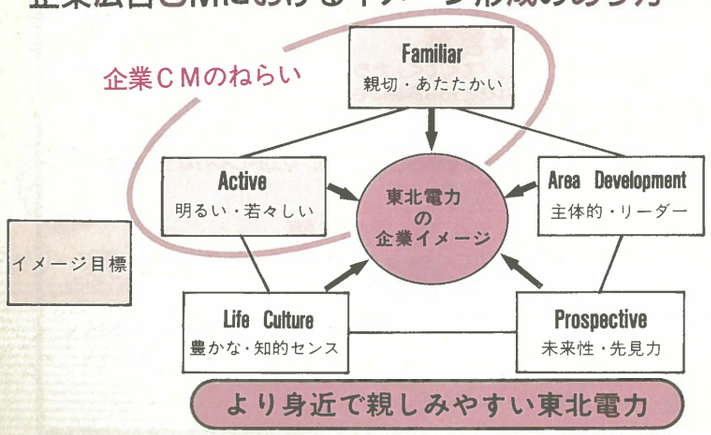
〈次ページの絵コンテ参照〉

『君は風の中に』を使用するFamiliar篇は，『てくてく』がお父さんと自然の中で釣りを楽しむストーリーです。『てくてく』とお父さんのふれあいを通じて，豊かな日々のくらしを大切にし，人に，地域に，地球に，自然にやさしい企業姿勢を訴求します。自然感，やさしさ，生活密着感といったイメージを伝えたいＣＭです。

『瞳は未来を映してる』を使用するActive篇の方は，自分の羽で大空を飛びたいという夢をもつ『てくてく』が，お父さんにカイトを作ってもらい空を飛ぶというストーリーです。この『てくてく』の冒険心，チャレンジ精神を通して，若い気持ちと勇気・行動力で次代へ向かうという企業姿勢を訴求します。新しさ，進歩感，未来感といったイメージを伝えたいＣＭです。

どちらのＣＭとも，視聴者により近い世界で表現し共感をもって見てもらえるよう，〝家庭のあたたかさ・家族のふれあい〟をストーリーのベースにおきました。

企業広告CMにおけるイメージ形成のあり方



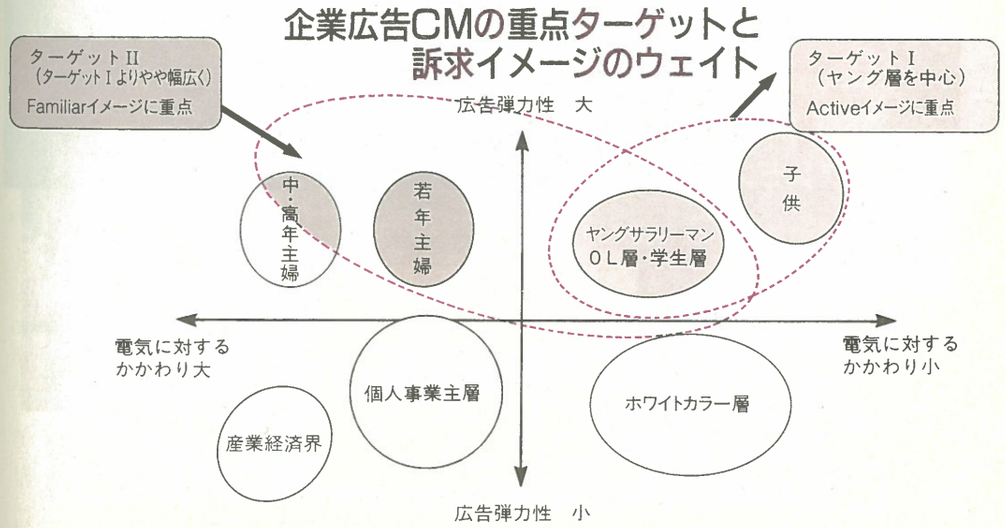
〔図１〕

ターゲット別のイメージ構成

	ターゲットⅠ	ターゲットⅡ	
イメージウェイト	親近感 Active ●明るい ●若々しい	Familiar ●親切 ●あたたかい	
サブポイント	新しさ 進歩感 未来感	自然感 やさしさ 生活密着感	
コーポレートソング	A. 瞳は未来を映してる（忍者）	B. 君は風の中に（谷川理恵）	

〔図２〕

企業広告CMの重点ターゲットと訴求イメージのウェイト



〔図３〕

Familiar篇

MUSIC

君は風の中に

谷川 理恵



湖に張った氷に穴をあけて魚釣りをしているてくてくとおとうさん。



しかし、魚はなかなか釣れず……
(60秒タイプはここで二人の交流をふくらませる)



やがて、あたりは日が暮れて真っ暗になってしまう。
寒々とした空気感。



もう帰ろうかと二人が思い出したとたんに釣れたのは、大きなチョウチンアンコウ。
寒々としていたあたりが、一気に暖かな空気に包まれる。



東北電力

Active篇

MUSIC

瞳は未来を映してる

忍者



空を飛ぶ一羽のカモメを見上げるてくてくとおとうさん。
てくてくは自由に空を飛ぶカモメをうらやましいと思う。



好奇心の強いてくてくに、空を飛びたいとねだられたおとうさん。
そばにあった洗濯物と、物干し竿を使って大きな凧をつくりあげる。
大喜びのてくてく。





てくてく 凧にのって大空を駆け回る。

東北電力

さて，3月にはCMがいよいよ完成します。撮影はスイスで行うこととなっていますが、最終回の次号では，このスイスでの撮影時の裏話なども交えながら，放送間近のCMを誌上公開したいと思います。

おたのしみに！

地球環境行動計画を策定

当社はこのたび，東北電力地球環境行動指針にもとづく具体的な施策をとりまとめた，**地球環境行動計画**を策定した。

当社は，平成２年３月に明間社長を議長とする「地球環境問題対策推進会議」を設置し，環境問題に対する研究の強化，開発やリサイクル運動など地球環境保全につながる活動に積極的に取り組んできた。また，平成４年７月には，「地球環境保全と豊かな社会づくりの調和」を当社の企業理念として位置付ける「東北電力地球環境行動指針」を策定し，その後，社内各部門においてその理念を具体化する方策について検討を行ってきたが，今回，これらを地球環境行動計画として取りまとめたものである。

行動計画では，第一に，地球環境問題対策推進会議の下部組織として新たに「緑の創造委員会」を設置し，当社事業所の緑化推進や森林保護，生態系保護のための活動への協力の検討などを行っていく。第二に，地域社会に根ざした環境保全活動や資源リサイクル運動などを地域社会とともに実施するモデル事業所を11箇所設定し社会共生活動を積極的に展開するEco-Point 11活動を行う。第三に，新エネルギーの導入に向けた実証試験を積極的に実施するとともに，地域特性，経済性，信頼性などを踏まえながら当社事業所などへの太陽光発電，燃料電池発電ならびに風力発電の導入をさらに推進していくこととしている。

これらの施策のほか，廃棄物の有効活用，技術開発に取り組むなど地球環境をめぐる情勢の変化に臨機応変に，かつ積極的に取り組むこととしている。

2002年ワールドカップサッカー 青森県・宮城県・新潟県 国内候補地に決定！



国内候補地に決定し，記者会見するW杯宮城・仙台招致委員会の関係者

１月14日，日本サッカー協会は，日本が誘致している「2002年ワールドカップ（サッカー）」（W杯）の国内候補地15自治体を正式決定した。

当社管内からは，青森県，宮城県，新潟県の三県が候補地に含まれた。その中で，平成４年７月から『2002年ワールドカップサッカー宮城・仙台招致委員会』の招致委員長として活動を行ってきた当社明間社長は，「立候補した15自治体がすべて候補地となったことは，高度な判断の下に決断されたものと敬意を表したい。今後は，W杯日本開催を実現させるよう努力していきたい」と述べた。

今後，日本協会は平成７年１月ごろ国際サッカー連盟（ＦＩＦＡ）に正式に立候補を申請し，平成８年６月のＦＩＦＡ理事会で日本開催が正式決定した後，国内の開催地について最終的な選定をゆだねることとした。

MYLDオンロード化 電池交換システムも開発！



オンロード化した電気自動車「ＭＹＬＤ」



電池交換用専用リフター

当社が開発した寒冷地向け電気自動車「ＭＹＬＤ」が，このほど車検を取得し，公道走行が可能となった。

「ＭＹＬＤ」は，平成３年10月に完成し，寒冷地向け電気自動車として国内外関係各方面から高い評価を得てきている。このほど，搭載するバッテリーを開放型の「ニッケル―鉄電池」から密閉型の「ニッケル―亜鉛電池」に変更し，メンテナンス性能を向上させたほか，車体重量などを保安基準に適合するものに交換して，「**宮城53る3638**」というナンバーを取得した。今後，さらに実用化に向け，一般道路における試験走行を行い，寒冷地向け搭載部品の評価や降雪時や雪道における電気部品の信頼性の評価試験を実施することとしている。

また，今回のオンロード化に合わせて，カセット方式による電池の簡易交換システムを開発した。電気自動車普及への一つの取り組みとして，使用した電池と深夜の間に充電した電池を交換する方式を検討してきた結果，世界初の分割によるカセット方式の電池の簡易交換システムの開発に成功した。

このシステムは，約200kgある電池を４分割して，車体に設置されたレールと専用のリフターを利用して10分弱で簡単に電池交換ができる。なお，走行中，電池は固定レバーにより完全に固定されているほか，この固定レバーは通電中の誤操作による電池の脱着事故を防止する保安装置も兼ねているなど安全面にも十分配慮したシステムとなっている。

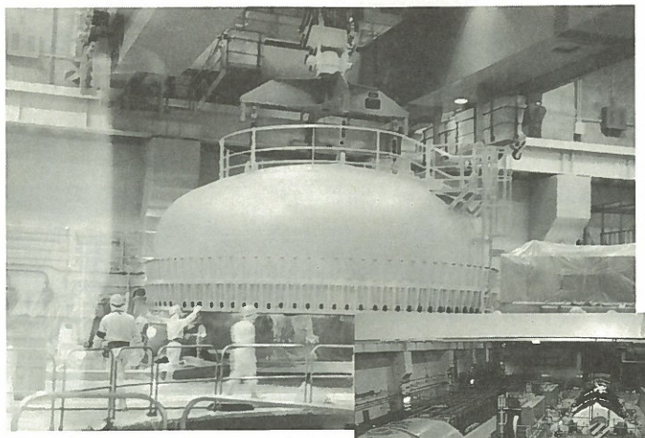
女川原子力発電所1号機

第8回定期検査開始

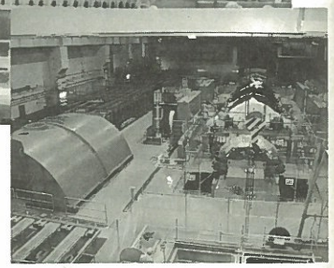
女川原子力発電所１号機（沸騰水型軽水炉，出力52万4,000kW）は，１月９日より約６か月の予定で第８回定期検査に入った。

定期検査は，電気事業法に基づき，原子炉およびその付属設備が国の定める技術基準に合致し，健全性が確保されていることを確認するために実施するものである。

今回の定期検査では，主タービン制御装置の一層の信頼性向上およびプラントの安定運転をはかるため，同制御装置をデジタル三重化された装置への取り替え工事を実施する。また，平成元年に実施した第５回定期検査に引き続き，原子炉再循環ポンプ出入口弁など，原子炉の水を抜かないと分解点検を行うことができない弁についても，検査することとしている。



原子炉開放作業状況（原子炉建屋５階）



タービン分解点検状況（タービン建屋１階）

今回の定期検査期間中には，368体ある燃料集合体のうち，約116体を新燃料に取り替えることとしている。

相川火力発電所 2号機着工……

２月１日，相川火力発電所２号機（内燃力，出力１万kW）の増設工事が着工された。

同２号機は，佐渡地域における電力需要の増加に対応し，より一層安定した電力供給を図るために，平成４年６月に運転を開始した１号機に引き続き増設するもの。

今後，発電所本館および煙突などの土木建築関係の工事を行い，平成５年12月からは機械関係の据え付けを行うなど，平成６年６月の運転開始を目指すこととしている。

能代火力発電所 1号機通気式行われる

秋田県能代市に建設中の能代火力発電所１号機（出力60万kW）は，１月19日，タービン通気式を行った。

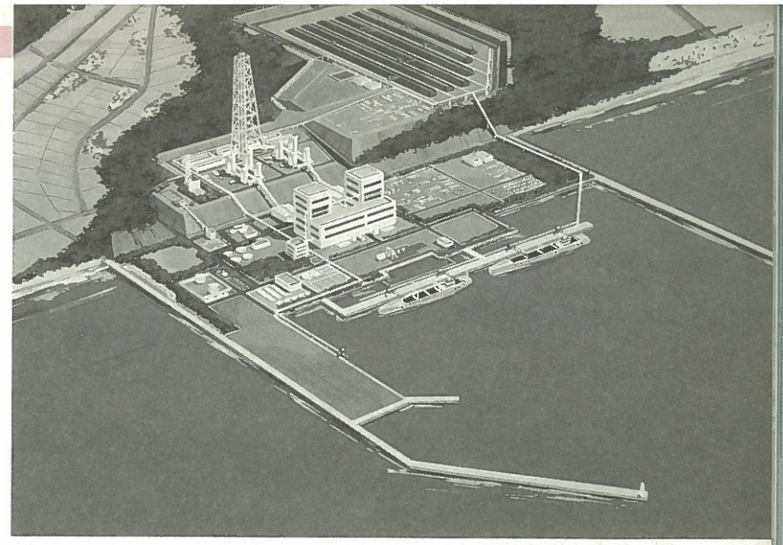
通気式には約50名の工事関係者が出席し，発電所本館のタービン前で神事を行い，今後の試運転の無事故無災害を祈念した。その後，中央制御室で通気の儀を執り行い，八島常務がタービン起動ボタンを押すと，ボイラーの蒸気がタービンに入り，自動的に起動を始めた。

同発電所１号機は，昭和60年10月着工以来，順調に工事を進め，今年７月，ポンプやファンなどの試運転を始めた。それ以降，各種試運転を行い，10月16日に，ボイラーに火入れを行い，12月22日には，電力系統へ初めて併入し発電試運転を行うなど，最終的な試運転段階を迎えている。

今後は，順次主燃料である石炭に切替えながら少しずつ負荷をあげ，定格出力の60万kWまでの各種試運転を行い，平成５年６月の営業運転開始を目指すこととしている。



新設工事 1号機着工 原町火力発電所



２月２日，原町火力発電所１号機（燃料；石炭，出力100万kW）の新設工事が着工した。

同発電所は，平成２年３月から敷地造成および埋め立て護岸築造などの準備工事を行ってきたが，同日より，発電所本館，煙突および湾岸施設などの工事を本格的に開始する。当社としては能代火力発電所に次いで２番目の大型石炭専焼火力発電所となり，単機容量としては当社最大規模となる。

同１号機には，電気式集じん装置や排煙脱硫装置などの環境保全対策が講じられているほか，防波堤への新型ケーソンの導入，ゾーンモジュール工法の導入，アクロポットの導入などさまざまな新技術・新工法も積極的に導入されている。

今後は，４月に起工式を行い，平成６年２月に発電所本館建設開始，平成８年９月ボイラー初点火を行い，平成９年７月の運転開始を目指すこととしている。

また，同２号機（燃料；石炭，出力100万kW）については，平成６年２月に着工し，平成10年７月に運転開始する計画としている。

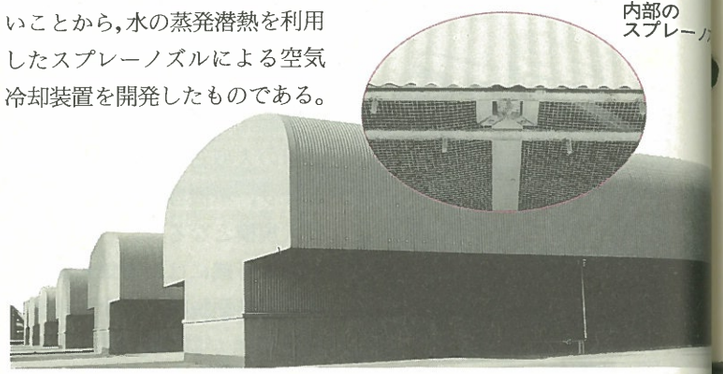
東新潟火力発電所
第18回省エネルギー推進全国大会 通産大臣賞受賞

２月２日から４日にわたり開催された第18回省エネルギー推進全国大会「省エネルギー実施事例優秀グループ等審査表彰」において，当社東新潟火力発電所「ガスタービン燃焼用空気冷却装置の開発」が通商産業大臣賞，仙台火力発電所「排ガス中水分連続測定システムの開発」が優良賞をそれぞれ受賞した。

この表彰は，わが国における資源・エネルギーの有効利用および地球的規模の環境問題の解決に資するため，工場・事業所などにおける省エネルギー意識の高揚と省エネルギー技術の普及・交流などにより，省エネルギー型産業への発展を図ることを目的に実施されている。

今回，通商産業大臣賞を受賞した「ガスタービン燃焼用空気冷却装置の開発」は，開放型ガスタービンは原理的に吸気温度が上昇すると出力が低下し，夏季にその能力を十分発揮できないことから，水の蒸発潜熱を利用したスプレーノズルによる空気冷却装置を開発したものである。

今回，全国の工場・事業所の省エネルギー実施グループなどから165件の応募があった。通商産業大臣賞の受賞は，電力業界としては４件目で，当社としては，平成２年度の仙台火力発電所の受賞について２度目となる。



通産大臣賞を受賞したガスタービン燃焼用空気冷却装

東北電気関係事業考案 研究発表会に４件発表

１月20日，仙台市において，東北電気協会が主催する東北電気関係事業考案・研究発表会が開催された。

東北電気協会では，電気事業の発展に寄与する優秀な考案・研究に対し，昭和52年より表彰を行っており，同研究発表会は，こうした考案・研究の発表の場として平成元年から毎年開催され，今年で５回目となる。

当日は，東北７県から関係者が参加し，当社勝又副社長も熱心に発表に耳を傾けた。

今回は，全部で９社12件の発表があり，当社からは４件の発表が行われた。

当社発表テーマは以下の通り。

＜発表件名＞

1. 電熱式小域路面融雪装置（ホームロードヒーター）の開発　（応用技術研究所）
2. ノイズレスグリップの開発実用化　（配電部）
3. 光空間電送式特高検相器の開発（古川技術センター・秋田支店電力部）
4. 配電線地絡回路判別装置の開発・実用化（山形支店電力部・技術部）



財東北産業活性化センター・設立5周年記念
地域活性化講演会 開催!


講演する佐藤隆三氏

１月19日，財東北産業活性化センター（会長　当社玉川会長）の設立５周年を記念して，仙台市内において，地域活性化講演会が開催された。

同センターは，昭和63年１月，東北地方の産業活性化のための施策を先導的に総合立案し，コーディネイトする組織として設立され，産業活性化に関する調査・研究，各種地域振興プロジェクトの発掘・支援，機関誌の発行による情報提供などを幅広く活動を行っている。

当日は，当社顧問でニューヨーク大学教授の佐藤隆三氏が「産業活性化についてのグローバルな発想」，作家の小松左京氏が「日本連邦の構想―道州制をふまえた首都機能の分散―」と題して講演を行った。

佐藤氏は講演の中で，「国をリードしていくには，Economic Power（経済力），Hard Power（軍事力），Soft Power（文化，哲学など）の３つの力が必要となる。経済力，軍事力は使えば使うほどなくなってしまうが，Soft Power は使えば使うほど人を呼び寄せる力となる。地方には東京にない Soft Powerを持っている。地方の活性化には，この Soft Power を大いに活用して，東京とは違う地方の色を出していくことを考えるべきだと思う」と熱っぽく訴えた。



わかりやすい例を用いて説明

会津若松支社
原子力PA発表会実施

１月21日，会津若松支社において「原子力ＰＡ発表会」が開催された。

会津若松支社では，営業開発とともに原子力ＰＡ活動を全支社員一人ひとりの重要な共通業務として位置付け，各職場単位での自主研修の活発化に取り組んできた。このたび，平成４年度の集大成と，お互いが研さんし合うことにより今後より一層の活発化とレベルアップを図ることを目的に発表会を実施した。

支社管内の全課所から１名ずつ合計23名の代表が，事前に与えられていた７つのテーマからそれぞれ１つテーマを選び説明を行った。５分間という短い時間ながら，職場単位で作成したＯＨＰや模造紙，紙芝居などを上手に使い，分かりやすい言い方を心掛けるなど随所に工夫や苦心の後が見られた。

参加した約100名の支社員は，最後まで熱心に耳を傾け，質問，アドバイスなど活発な意見交換が行われた。

発表終了後，副支社長，ＰＡインストラクターから話し方などの感想と今後の活動に対するアドバイスがあり，本店広報部ＰＡグループ葛岡副調査役による「原子力をめぐる最近の動向」と題した講演で締めくくった。

今後も，婦人層，次代層など対象別の設定による発表会の実施も検討していくこととしている。

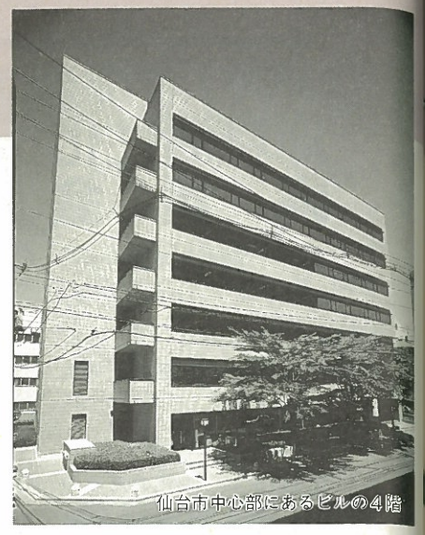
GROUP ウォッチング

●このコーナーでは，東北電力企業グループ各社の活動を紹介していきます

東北緑化環境保全株式会社

東北のTと緑化のRを意味し，青空と緑の協調を表現している





仙台市中心部にあるビルの4階

今回訪問した東北緑化環境保全株式会社の入口に，色鮮やかな人工の草花が飾ってあった。「青い空とみどり豊かな環境づくり」をメインテーマとしている会社の雰囲気をよく表していると感じた。

同社は，昭和47年，急速な経済発展に伴う公害が社会問題として大きく取り上げられる中，自然環境を守りながら地域社会の発展に貢献することを基本理念として設立された。当社の一翼を担う環境アセスメントや測定分析などの環境調査業務をはじめ，緑化工事や研究開発などの事業に取り組んでいる。

平成４年４月には創立20周年を迎えたが，「当時，東北緑化環境保全という社名は，とても長いので，今風の新しい社名にしようかという意見も出たのですが，緑化・環境・保全のどれをとっても，現在，地球的規模で問題提起をされていることなので，現在の社名をこのまま大切にして問題解決に取り組んでいこうじゃないかということになりました」と今回，案内をしてくれた後藤総務課長が話してくれた。

平成３年３月には，研究開発室を発足し，これまで各部において行ってきた研究開発テーマを一層充実させるとともに，新しい分野への開拓を目指している。ちょうど，訪問した日は，研究開発室が中心となって，同社の技術開発報告会が行われていた。第１回目ということで，会場全体には少し緊張感が感じられたが，同社が自主研究として推進している七つのテーマの中の一つである，「石炭灰の有効利用に関する研究」について中間報告が行われ，大島社長以下関係者が熱心に耳を傾けていた。

〈企業概要〉

- ●設　　立　昭和47年４月１日
- ●代 表 者　取締役社長　大島　達治
- ●従業員数　265名（男性210名，女性55名）
- ●事業内容
  - ・造園土木工事の設計・施工・維持管理
  - ・各種環境調査・測定・分析・環境アセスメント
  - ・バイオテクノロジーの植物培養への応用
  - ・人工衛星データ利用による地球環境などの調査
  - ・土壌改良材・ネットフェンス・燃料添加剤・人工樹木販売
- ●事業所　（支社）
  六ヶ所，八戸，秋田，仙台，女川，酒田，会津，原町，新潟，東新潟

地域社会に貢献する企業を目指して

「発電所をつくる前の環境調査が当社の仕事なんです。環境調査と一口でいっても，気象状況や河川や海から陸の生物，自然環境からその地域の人口や産業，交通，文化などの社会環境まで幅広く調べます。それだけに地域に密着した活動が必要となってきます。現在，特異な調査として行っているのが，アオサギとイヌワシです。秋田県の南バイパス工事残り３kmに着手したところ，近くにアオサギの巣があるので，地元の野鳥の会の方の協力を得て，秋田大学の先生とともに昨年９月から１年間，巣づくりからヒナの育成など，その生態について調査を行い，道路敷設についての影響調査を行いました」

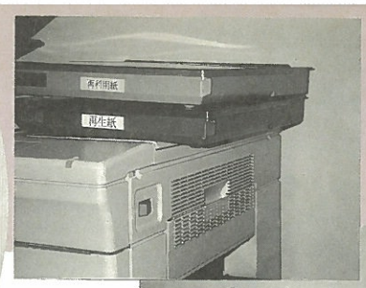
この他にも，昆虫や植物などの調査も行っている。「実際に虫採り網を持って追いかけることもあります」　小学生の夏休みの昆虫採集のような感じがして，わくわくすることもあるそうだ。また，秋田県の水辺には，珍しい植物が多い。しかし，最近の野草ブームで，絶滅しかかっている植物も少なくない。「きれいな花ほどねらわれる確率が高いんですよ。えびねランなどは，この10年間でほんの数回ほどしかお目に掛かったことがありません」秋田県の雄物川水辺の国勢調査を行った時には，貴重な植物を３種類発見した。いずれも日本自然保護協会が指定した「わが国における保護上重要な植物種」に属したもので，植物保護の上からも大きな発見となった。



▲入口に飾ってある色鮮やかな人工の草花



女子社員の制服
平成５年４月からは新デザインの制服（右側）に変わる



◀再生紙と再利用紙とに分けてリサイクルを推進



３ヶ月間で▶約８万円相当の事務用品が回収された

身近なところから省エネを実践していこう

同社は，当社の「地球環境行動指針」を受け，社内に環境保全推進委員会を発足し，独自の行動計画を策定し，全社を挙げての取り組みを行っている。３か月ごとに開催される同委員会で，実施結果とその成果について確認を行っている。

身近なところからの取り組みとして，事務所などの昼休みの照明やワープロ，コピーなどＯＡ機器の不要時のスイッチオフを習慣化することや社用せん，コピー用紙の再生紙利用やミスペーパーの裏面を活用していくなど，紙のリサイクル活動につなげている。また，各事務所内に再利用可能事務用品回収ボックスを設置し，机の中で眠っている文房具を回収したところ，３か月で約８万円相当の文房具が回収された。「物を大切にする心も一緒に育ってくれればと考えています」と後藤課長。

さらなる飛躍を目指して

今回の訪問を通じて，東北緑化環境保全という名前のとおり，緑を大切にし，地球の環境を守りながら電源開発の根底を支えている活動を積極的に行っている会社という印象を持った。平均年齢31.7歳の若いパワーが地球環境保全という大きなテーマへの活動の力となっている。「会社が発展していくと，地域社会に対する責任の重さも変わってきます。みんな，植物や動物が好きでこの仕事をしている人が多いのですが，仕事一筋だけでなく，これからは，社会に目を向け，地域社会の中により溶け込んで仕事をしていくことが大事になっていくと思っています」と今後の抱負を語ってくれた。

同社では，今，春に向け新芽が芽吹くように，また新しい緑を大きく育てようとしている。

PAL奮闘記 ～福　島～

"強力な個性がぶつかり合う！ それが福島支店のPALだ。"

――誕生…そして今、これから――

福島支店管内は，原子力発電や水力・火力といった多くの電源を有する地域であり，また，浪江・小高地点や原町火力といった大きなプロジェクトが進められているところでもあります。

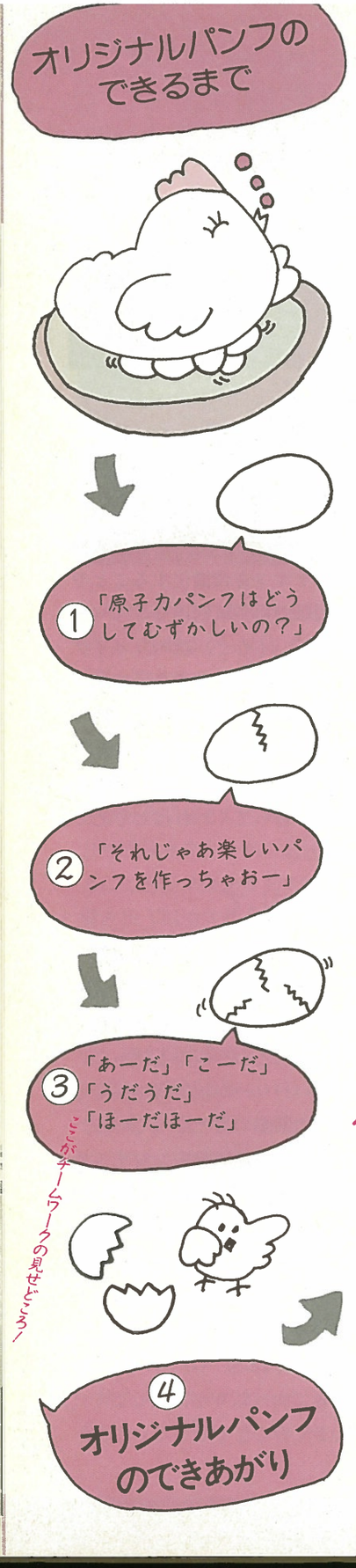
このような状況の中、福島支店管内のＰＡＬは、平成２年８月に発足してからというもの，勉強会はもとより，さまざまな施設を見学するなど，積極的に見聞を広めてきています。

この成果は，日頃の接触活動のほか，新入社員や女子高生の研修会といった場面で遺憾無く発揮されていますが，このような活動を通しての悩みの一つに，若い人たちの無関心・無反応があるといいます。

自分たちが，いかに「エネルギー」について、簡単に砕いた話し方をしたとしても若い人たちからの反応を感じないのだそうです。

この問題をどう解決しようかと「あ～だ，こ～だ」と悩んだ末にＰＡＬのみんなが作成したのが「オリジナルパンフ」だったのです。

そして，一人ひとりが豊かで強力な個性を持っていると言われている福島のＰＡＬ。彼女らが心に刻んでいるのは，一つのエネルギーとしての原子力の大切さを語る時，知ったか振りをして，本の受け売りのような難しい話をするのではなく，これまで身を持って見聞し，**自分が納得したものを自分の言葉で自信を持って話すということが何よりも大事**だということなのです。





今月は、福島支店管内のPALのみなさんが力を合わせて作成したオリジナルパンフができるまでの様子や、これまでの慣習にこだわらず、自由な意見を出し合い活動を展開している模様をご紹介します。



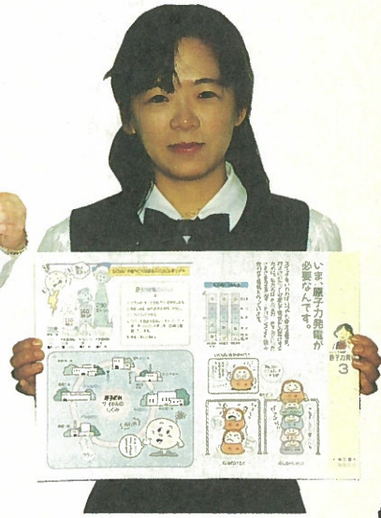
福島営業所　お客さまサービス課
二階堂　しづかさん
「気楽にやってます」



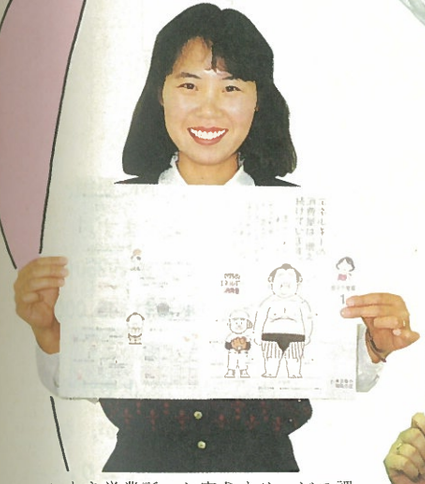
会津若松支社　土木課
石山　**育代さん**
「自分の言葉でやってます」



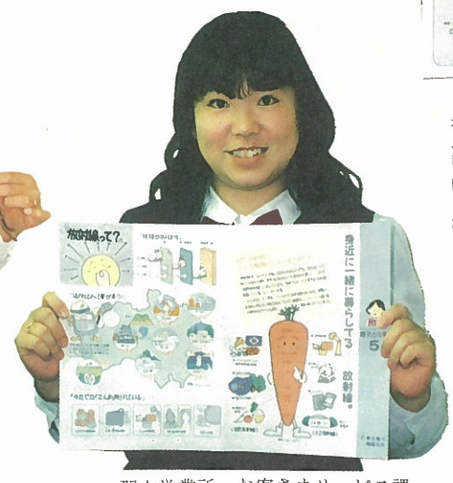
原町営業所　お客さまサービス課
菅野　みつ子さん
「友達の輪が広がっています」



福島支店　営業・配電部
高井　暢子さん
「PALの人たちと一緒にがんばっています」



いわき営業所　お客さまサービス課
矢吹　久江さん
「明るく楽しくやってます」



郡山営業所　お客さまサービス課
小林　由里子さん
「KOKUSAI的にやってます」

★持っているのが2代めのオリジナルパンフです。

そして今…
それぞれガンバッテます。

TOPICS

■規程整備推進事務局だより❸

わが室部の会社規程の見直し

〝より価値のある仕事をしよう〟，〝実感できる仕事をしよう〟をスローガンとして，平成３年８月にスタートした「会社規程の全面見直し」については，これまで２回（平成３年９月号，平成４年５月号）にわたり社誌で紹介しましたが，各室部の見直し作業も中盤にさしかかってきました。

そこで，今後，各室部の見直し状況や新しくできあがった会社規程を紹介して，皆さんの業務に役立てていただきたいと思います。トップバッターは積極的に見直し作業を進めている用地部の登場です。

用　地　部

用地部門では，水力発電，送電，変電および配電設備等の用地の取得，管理業務を行っていますが，近年，用地事情がますます厳しくなる中で，工事件名の増加に伴う事務処理量も増大しています。

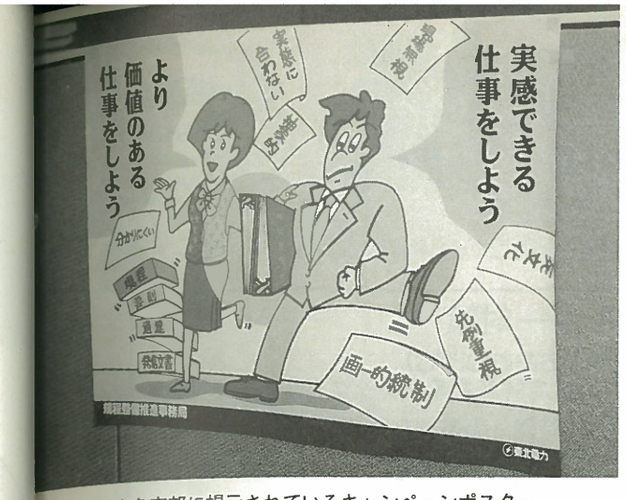
このような状況下で，いかに用地業務を効率的に的確な処理を行うかが課題となっており，今回の規程整備は，用地部門としても最重要課題として取り組んでいます。

1. 用地規程体系の現状と経緯

(1) 現在，用地業務にかかわる「規程」はなく，「電線路用地事務取扱要則」等の要則が５つ制定されており，各要則の下に要領，基準等の通達が30件定められています。

さらにその下に種々の通知文が約250件程度出されているため，その**総量は約5,000ページと膨大な量**になっています。

(2) 上記の要則等は，社会環境の変化や法令改正等の都度見直しを図っていますが，なかには制定から20年以上も経過しており，業務実態と規定内容が乖離（かいり）し，要則自体が形骸化している部分が少なくありません。業務実態に合わせて要領の制定や通知文等により逐次補完していますが，このことがふくそう化等をもたらし，初心者にとって理解しにくいという声も出されています。



本店各室部に掲示されているキャンペーンポスター

2. 新しい会社規程体系と推進体制

(1) 新しい会社規程体系は，業務処理の流れに沿った方式に改め，基本的には用地の取得と管理に区分し，複数の業務に共通する事項については，個別に基準化するなど，**次の12の取扱基準に整理統合**を図ります。

①用地取得業務取扱基準
②用地管理業務取扱基準
③用地補償業務取扱基準
④土地評価事務取扱基準
⑤標準契約書取扱基準
⑥用地業務委託取扱基準
⑦水利業務取扱基準
⑧水力立地業務取扱基準
⑨配電用地業務取扱基準
⑩補償金工事事務取扱基準
⑪事業損失取扱基準
⑫土地管理図取扱基準

(2) 基準整備を円滑に推進するため，部門全体で次のとおり取り組んでいます。

a．用地部副部長をリーダーとしたワーキンググループを設置し，毎月１回全体会議を開催し，部内基準整備の検討・調整を行っています。

b．グループ単位で基準素案の検討会を週１回実施しており，実態に応じた合理的な基準を目指して議論を重ねています。

c．新基準の素案段階で支店の意見を求めながら，**現場第一線を重視した基準づくり**を進めており，今後必要に応じて支店メンバーを含んだワーキンググループ会議を開催する予定です。

d．関係部門との調整は，相手方の立場を尊重し，**部門間の風通しを良くすること**を重点に事務手続き等の簡素化を進めています。

(3) 上記推進体制のもと，平成４年10月に基準の第１号として**「土地管理図取扱基準」**を制定しました。

これまでの土地管理図は，「図面の作成および整備保管要領」に基づいて，作成・整備を行っていましたが，近年における地権者意識の高揚等に伴い，土地境界に関するトラブル等の発生が増加し，同要領で作成した図面では，迅速かつ的確な対応が厳しい状況となっていました。

同基準は，**「時代変化に対応できる土地管理図の整備」**を目指して，第一線機関との議論を何度となく重ねたすえ制定に至ったものであるため，実態に即した土地管理が一層充実し，取得権利の保全が図られることになります。

平成４年12月末現在の用地部門の見直し作業の平均進ちょく率は，47.1％と当初予定から若干遅れている状況ですが，平成５年10月には，全基準の整備が完了できるよう部員全員が精力的に取り組んでいます。

会社規程の見直しにかかわるお問い合わせは，規程整備推進事務局の「総務部法務課」までご連絡ください。

掲示板

冬季の省エネルギー対策

1．事業所内の暖房温度の適正化（暖房：おおむね20℃）
　●暑すぎませんかあなたの事業所。温度計を見てチェックしよう。

2．事務所の照明の節約（窓際，昼休み，時間外の不要な照明の消灯）
　●自宅での省エネ意識を会社の中でも実行しよう。

3．エレベーター，ＯＡ機器などの効率的な使用
　●階段を使って省エネルギーと運動不足の解消を。
　●ＯＡ機器もみんなと一緒に休みたいよ。

4．社有車の効率的な使用
　●限りある石油を大切に。

5．マイカーの効率的な使用
　●スピードの出し過ぎはエネルギーと命のムダづかい。

6．再生紙の使用や紙のリサイクル推進
　●貴重な資源の有効活用を。

2月は省エネルギー月間です



当社が提供するテレビ・ラジオ番組

新サンデー・トーク
ごきげんよう草柳です

○２月・３月の予定○

２月14日　「日本最大の土偶」
　　佐々木　洋治（山形県埋蔵文化財専門員）
２月21日　「過労死はこうして防ぐ」
　　安岡　博之（精神科医）
２月28日　「笑いの効用」
　　小田　　晋（筑波大学教授）
３月７日　「コメ，今本番」
　　今村　奈良臣（東京大学教授）

毎週日曜日

青森放送	午後	12：00～12：30
岩手放送	午前	10：00～10：30
秋田テレビ	午前	10：00～10：30
仙台放送	午前	10：00～10：30
山形放送	午前	10：00～10：30
福島テレビ	午前	10：00～10：30
新潟放送	午前	10：00～10：30

白い国紀行
○テーマ○

2/15～19　黄金物語
2/22～26　冬に舞う
3/1～5　外から見た東北　～関西編～
3/8～12　只今，建設中！

毎週月曜日～金曜日

青森テレビ	午前	11：30～11：45
テレビ岩手	午前	10：00～10：15
秋田放送	午前	10：35～10：50
ミヤギテレビ	午前	10：00～10：15
山形テレビ	午前	10：00～10：15
福島中央テレビ	午前	10：00～10：15
テレビ新潟	午前	10：00～10：15

ファミリーサイエンス
毎週金曜日

青森朝日放送	午後	5：15～5：30
秋田朝日放送	午後	5：15～5：30
東日本放送	午後	6：45～7：00
福島放送	午後	5：15～5：30
新潟テレビ21	午後	5：15～5：30

草柳文恵のお元気ですか
毎週月曜日→金曜日・５分番組

青森放送	午前	10：10～10：15
岩手放送	午前	9：45～9：50
秋田放送	午前	9：25～9：30
東北放送	午前	9：50～9：55
山形放送	午前	11：45～11：50
ラジオ福島	午前	10：45～10：50
新潟放送	午前	10：40～10：45

あなたとアフタヌーン
沢田聖子の WITH YOUR LIFE
毎週土曜日

エフエム青森	午後	12：00～12：30
エフエム岩手	午後	12：00～12：30
エフエム秋田	午後	12：00～12：30
エフエム仙台	午後	1：00～12：30
エフエム山形	午後	2：00～12：30
エフエムラジオ新潟	午後	12：30～1：00

黒崎昭二のシャンソンをあなたに
毎週土曜日

エフエム秋田　午後　7：00～7：55

TELEVISION
AM RADIO
FM RADIO

COFFEE BREAK



●コーヒーブレイク●





男の子は妻をめとるまで我が子であり、
女の子は終生我が子である

皇太子さまと雅子さまの結婚が決まるという明るい話題が街中を駆け巡っている。お二人にあやかって今年は結婚するカップルも増えるのではと関係者は予想しているようだ。このニュースが，鶏が朝を告げるような景気回復の幕開けを告げるキッカケとなるのかどうか，期待も大きいことだろう。

結婚が決まれば，誰もが２世の誕生を楽しみに思い描くもの。

「子供は元気に生まれてくれさえすれば，男だろうが女だろうが何も言うことはない」というのが本当の親の気持ちだろうが，イギリスに「男の子は妻をめとるまで我が子であり，女の子は終生我が子である」ということわざがある。

「息子というのは奥さんをもらうまでが自分の子であるが，娘は生涯自分の子であって嫁にやっても良き話し相手になってくれたり，親の面倒もみてくれるものだ」という意味だという。

このことわざ，イギリスだけではなく，自分の家族にもあてはまると思った方も多いのでは…。

長い間ありがとうございました

平成５年２月
定年退職者の方のご紹介
（敬称略）

1. 入社年月日と入社時の会社名
[redacted]
3. 在職中の思い出
4. 後輩に一言



応用技術研究所
電気利用研究室
小室　秀信
❶昭和30年４月１日　東北電力
[redacted]

❸　平成４年８月に能登で行われたソーラーカーラリーにＭＹＬＤチームの一員として参加し，好成績をおさめることができたこと。
❹　電力マンであると同時に，地域社会の一員であることを忘れずに。人とのふれあいを大切に頑張ってください。

関連事業部付
東北シティ開発株式会社出向
八木　壽博
❶昭和25年11月１日　東北配電
[redacted]

❸　昭和30年前後，株式課で残業の連日，お互いに励まし合い，心を一つにして増資業務を遂行したこと。
❹　反省心，向上心，実行力の三つを身に付け，「感動を呼ぶ人生」を送るべく，頑張ってください。





関連事業部付
財団法人東北電気保安協会出向
長谷川廿一
❶昭和22年10月１日　日本発送電
[redacted]

❸素晴らしい職場で，素晴らしい先輩と仲間に出会ったことです。45年の間にふれあった人たちすべてが私の財産です。
❹　人生，ふれあいが大切です。ふれあう「今」は２度と帰ってこない一期一会です。価値ある毎日を!!

青森支店立地用地部付
東北用地株式会社出向
昆　　國雄
❶昭和26年４月１日　東北配電
[redacted]

❸　カクテルライトや電気毛布の訪問販売，高額未収回収など，同僚と苦楽を共にしたこと，すべてが懐かしい思い出です。
❹　心と体の健康，安全に留意すること。職場と家庭の和に努めること。地域ボランティア活動に役立つ趣味を多く持つこと。





大曲営業所　配電課技術係
鎌田　貢雄
❶昭和25年11月５日　東北配電
[redacted]

❸　長いようで短かった42年有余，各職場で良き先輩，同僚に恵まれ無事勤められたことに心から感謝します。
❹　心身ともに健康で安全に。人とのふれあいを大切に，地域社会より一層信頼され親しまれるように頑張ってください。

石巻営業所　総務課総務係
沼田　正子
❶昭和28年９月８日　東北電力
[redacted]

❸　良き上司，先輩，同僚に恵まれ，この39年間勤務できたことすべてが思い出です。
❹　健康と安全を第一に，明るい職場，明るい家庭を築いて，さわやかな人生を送ってください。







仙台技術センター業務管理課付
東北発電工業株式会社出向
佐藤　正雄
❶昭和36年３月１日　東北電力
[redacted]

❸　32年の間，各職場において多くの方々の恩情を受け，楽しく仕事に従事できたことすべてが懐かしい思い出です。
❹　心身の健康管理に十分留意して，職場と家庭をますます明るく築きあげるよう努めてください。

宮城支店付
東北計器工業株式会社出向
小川　春雄
❶昭和26年４月５日　東北配電
[redacted]

❸　仙台火力発電所と女川原子力発電所の立地，建設業務に日夜全力投球したことが，懐かしい思い出です。
❹　協調と感謝の心を大切にし，東北電力の社員としての誇りと，自信を持って活躍してください。





宮城支店
立地用地部
氏家　孝三
❶昭和26年４月５日　東北配電
[redacted]

❸　各職場，特に用地交渉などで先輩，後輩とともに，苦楽をともに過ごした日々が懐かしく思い出されます。
❹　健康と安全を第一に，心にゆとりを持ち，悔いの無い人生を送ってください。

長井営業所　配電課
鈴木　正蔵
❶昭和27年７月１日　東北電力
[redacted]

❸　職場で体験した数多くの出来事，また人々との出会い。苦楽をともにして過ごしたすべてが懐かしい思い出です。
❹　健康と安全を第一に，信念を持って，明るい職場と楽しい家庭を築いてください。





会津若松支社総務課付
財団法人東北電気保安協会出向
村澤　　博
❶昭和26年４月１日　東北配電
[redacted]

❸　野沢・小林各電業所での配電線の雪害，水害の復旧に応援の方と一緒に一丸となって対処したこと。
❹　健康と安全が第一だと思います。また，地域社会との連携も欠かせないものと思います。お客さまを大切にさらなる発展をお祈りします。

会津若松支社
配電技術課技術一係
鈴木　栄司
❶昭和29年２月15日　東北電力
[redacted]

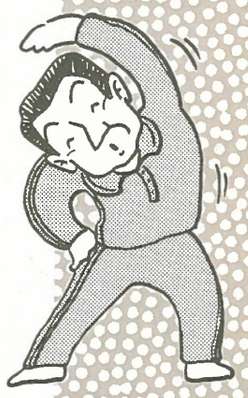
❸　入社当時，リヤカー自転車を利用して作業したこと。職場で良き上司，先輩，同僚，後輩に恵まれて仕事が楽しくできたことが思い出です。
❹　健康と安全に留意され，他人の痛さを理解し思いやりのある楽しい職場と明るい家庭を築いてください。





福島営業所
配電計画課計画係
菅野　玲子
❶昭和27年７月１日　東北電力
[redacted]

❸　多くの方々に支えていただき感謝いたしております。たくさんの思い出を心の糧としていきたいと思います。
❹　長い間お世話になりありがとうございました。どうぞお元気で明るく充実した日々をお過ごしください。



これからもガンバッテください



いわき営業所付
財団法人東北電気保安協会出向
鈴木　正得
❶昭和26年４月１日　東北配電
[redacted]

❸　良き先輩，友人に恵まれ気持ちよく仕事ができました。酒田大火の復興，電源開発が特に思い出として残っています。
❹　健康と安全を確保し「先見的対応の実践と心のゆとり」で東北電力をさらに発展させてください。



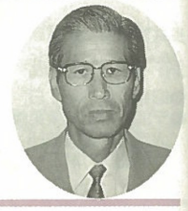
いわき技術センター土木課
岩塚　武久
❶昭和40年７月20日　東北電力
[redacted]

❸　良き上司，先輩，同僚に恵まれ楽しく勤務できたこと，すべてが懐かしい思い出です。
❹　健康と安全に留意し，人との出会いを大切にし，活力ある明るい職場を築いてください。



巻営業所　配電課
淡路　傳二
❶昭和26年３月１日　東北配電
[redacted]

❸　各職場で良き上司，先輩，同僚に恵まれたこと。台風，雪害の時，不眠不休で事故復旧に当たったことが思い出です。
❹　健康と安全に留意され，人との出会いを大切に，活力ある明るい職場と家庭を築いてください。



新潟支店
村山　正男
❶昭和26年３月５日　東北配電
[redacted]

❸　立地用地業務を20年間勤め，ひざを交え丁丁発止交渉した多くの地権者の顔が，今，鮮明に思い出されます。
❹　安全と健康を第一に「和をもって何でも本音で話せる規律ある明るい職場」をつくってください。



高田営業所　お客さまセンター
技術サービス係
飯田　晋二
❶昭和36年４月１日　東北電力
[redacted]

❸　第２室戸台風の被害による高低圧断線修理の復旧作業に夜遅くまで当たり，明かりのついた時のお客さまの喜びの顔が今も思い出されます。
❹　21世紀に向かい健康と安全に気を付け自己啓発に励んでください。



新潟営業所　配電計画課付
財団法人東北電気保安協会出向
嶋田　久男
❶昭和23年６月10日　東北配電
[redacted]

❸　各職場で良き上司，先輩，同僚に恵まれ，苦楽をともに過ごした日々，新しい土地で，地域の方から親切にしていただいたことなどが思い出です。
❹　健康と安全を第一に人とのふれあいを大切に，明るい職場と家庭を築いて社会のために頑張ってください。



新仙台火力発電所付
東北発電工業株式会社出向
常盤　健夫
❶昭和26年４月５日　東北配電
[redacted]

❸　昭和55年12月の雪害当日，気仙沼から12時間かかって帰仙し，送電線復旧の後始末に，昼夜走り回ったこと。
❹　「年を経るにつれて時は多くの教訓を与える」。失敗を恐れず，未来に向けて，果敢に挑戦してください。



FREE TALKING 気ままにおしゃべり 2月

NAHAマラソン



1992年走り納めの大会は第８回ＮＡＨＡマラソン。

エントリー１万8,000人，６時間の制限内完走１万5,000人という日本一のマンモス大会。42㎞に切れ間なく続く，みかん，バナナ，氷，黒砂糖などを持っての沿道の応援。チビッ子やおばあちゃんのこの応援がうれしく，まるで一流選手にでもなったような気分になる。応援につられ，ついついオーバーペースになり，バテバテでやっとゴールした去年の反省（783位）も生かせず，今回も同じような結果（679位）に。

南国の土地柄だけではない人の温かさを感じるこの大会。今年は最後尾からスタートし１万5,000人抜きをやってやろうと今から意気込んでいます。

（米沢：走遊子）

ザザンボ

「ザザンボ」とは方言で「葬式」のこと。1976年に福島県で起きた中学生自殺事件が実は他殺だった，という告発映画のタイトルに使われている。

昨年話題になった映画「ＪＦＫ」に比べるとスケールは小さいかも知れないけど，身近な出来事だけにかえって怖い。

現に地元じゃ上映中止の憂き目にあっている。真相もさることながら，もっと怖いのがその背景にある日本人独特の陰湿さ，物事を隠してしまう特質。

昨年５月に完成したものの，内容にびびった松竹が上映権を放棄していったんお蔵入りになったのを監督が6,900万円払って買い戻したとか。しかし，「地元出身の監督が地元を舞台に撮った」というだけの理由で，自殺・近親相姦・孫殺しｅｔｃが出てくる映画に，年寄りから子供まで大勢が見に来る，というのも凄い…。

（会津：鉄）

Uターンの難しさ

新年の特集で「Uターン」を取り上げた新聞があった。

首都圏と仙台市に住んでいる二人の子供も年末に帰郷したが，市内や自宅に居るよりも近郊の中心都市に出掛けることが多い。現代っ子にとって大都会の魅力が尽きないことが，Uターンの難しさとなっている。

わが家も例外でないと，「老後」や「定住」について改めて考えた年始だった。（十和田：津軽衆）

ヒゲをはやしてなぜ悪い！



口ヒゲをはやして1か月が経過した。年末には剃ろうと思っていたけれど，愛着が湧いてしまっていまだに剃れずにいる。いっそのこと春までこのままでいようかとも考えたりしている。

ヒゲをはやしてみて，一般Peopleの多く（当社社員も当然のことながら）が，ヒゲに対してアナクロ的な偏見を抱いていることを痛感した。自分としては，女のコが髪型を変えるのと同じレベルで，ヒゲをたくわえただけなのに。論理的な根拠のないまま一方的に「剃れ」と言われたり，「ヒゲはえらい人がはやすもの」という封建的・軍国主義的な偏見が今も根強くはびこっている事実にがっかりしている。エラぶろうとしてヒゲをのばしているわけではないし，ちゃんと毎日手入れをして見苦しくないように努力しているのに。（これだって一種のおしゃれだと思う）

ヒゲはなぜいけないの？なぜイメージが悪いの？誰か論理的な答えを教えてください。（郡山市の有名希望の福地裕明）

うちのお父さん

年末といえばボーナスの時期です。わが家でも主人がまずもらってきてくれました。

私「お父さんボーナスいっぱいもらってきてくれたから何か欲しい物ない？」

主人「別にないなあ〜」

私「じゃあ，みんなで旅行とか，おいしい物でも食べに行こうか」

主人「いいや，子供のために貯金でもしておこう」

私「お父さん仕事忙しいんだからストレスたまってるでしょ。どっか行こうよ」

主人「おれ，仕事で嫌なことがあったり，ストレスがたまっていても家に帰ってきて子供の顔を見ると全部ふっとんでしまうからなあ」

……とまあこのような年末の会話でした。

前から子煩悩で，私の甥や姪にも好かれている主人です。

この時はこんな人もいるんだなあと改めて尊敬しました。

ちなみに，私の主人は社外の人です。（新潟：丸マル子）



エレベーターの乗り方



今年から本店のエレベーターが新しくなり，幾分早くなったような気がする。でも，乗る人のマナーはどうか？

外部のお客さまも乗る所なのに…

①サンダルばきでエレベーターに乗る人。（水虫の人も外へ出る時ははきかえること）

②お客さまより先に自分からサッサと降りてしまう人。

③やたらと閉のボタンを押す人。（私はこの間はさまれてしまった）

④女性より先に降りる人。（外国に行ったら笑われます）

⑤降りようとしても扉の前をふさぎ，声を掛けても開けようとしない人。

こんな人いますね!!たくさん。（宮城：本店F−801S）

私が電力の社長です

仕事柄，お客さまと話すことが多い私は，時々自分が社長の代わり？をしているような気持ちになることがあります。

私が話すことで，電力全体に与える印象がずいぶん変わってくると思います。そうすると自分が勤める会社を悪く思われたくないから，自分が会社のオーナーみたいな感覚で話をします。お客さまの前では，私が社長なのです。（女川：パパちゃん）

ごちそうさま〜。

「今日は何を食べようかなあ」夕食の支度をしようと冷蔵庫を開けると，中はカラッポ。「ガーン。ショック…」すると突然，会社の電話がトルルルル〜。

「はい，東北電力です」

「○○食堂ですが，電気がつかなくなったので何とかしてほしい」ラッキー！すぐに現場へ向かい，復旧作業に当たった。

間もなく，食堂はやさしく暖かい光に包まれた。

食堂のご主人が「何か食べますか？」待っていました，そのお言葉を。大きな声で「はい，野菜いため定食をお願いします」テーブルには，コーラ，ギョウザ，もつ煮こみ，大盛りゴハンが並べられた。久しぶりにお腹いっぱいの栄養補給。しかも，タダで…。これも私の人徳だと思い，HAPPYな気持ちになった。○○食堂さん，また電気が消えたら私にご連絡を!!（最上のさみしがり屋）



リサイクル活動の拡大について

全社的にアルミ缶のリサイクル活動を行っていますが，より活発化させるには事業所はもちろんのこと，社宅やアパートなどの組織での取り組みが効果大であると思います。またアルミ缶に限らず，古紙，牛乳パック，発泡スチロールなどリサイクル品を拡大し，地域的に取り組む必要があるのではないでしょうか。全社運動として地域を巻き込んだリサイクル活動の積極的支援方策を望みます。

（青森：エレキ猫）



THE　趣味

豊かな人生，良き友を得るためにも趣味は欠かせない。数多い程よいと思うが，アキないで極めるまで努力することは難しい。

あるサービスセンター管内の高齢な検針員が不慮の事故で亡くなった。葬儀に町長さんが，生涯の碁かたきを失ったと泣いて弔辞を読んだ。

誰よりも2時間早く出社し，尺八の練習を重ね，都山流師範の免状を得た上司。テニス歴45年。いまだ研さん怠らず，常に県下でベスト3入りしている前衛の名手の元小学校長先生など。

継続は力，好きこそものの上手なりと努力している人は，身の回りにたくさんいる。ぜひ見習いたいと思うこのごろである。（北上：ゴロ寝の父さん）

愛それはカメラ

私は風景写真を撮り続けて30年になる。風景写真は天候が大きく左右する。山，川，空，鉄橋，橋，野原，田，畑，星空，夜景，月など，24時間を通して写し歩く。草木が芽を出し花が咲く春，ギラギラと太陽輝く夏，紅葉の美しい秋，雪の積もった風景と同じ場所，同じ物でも四季それぞれの美しさがある。これからも続けて行くぞ死ぬまで。皆さんも始めてみたらどうですか。すごく楽しいですよ。

（福島：会津盆地）

編集後記

取材時のカメラ撮影は，撮り直しがきかないものもあって大変緊張します。以前，フィルムの装てん方法を間違って何も写っていないネガを写真屋から返され，自分の腕ではなく，カメラ自体や写真屋を疑って大変恥ずかしい思いをしたことがあります。

前月からカラーのページを設けていますが，大きなインパクトを与える写真1枚1枚の持つ意味を十分に考え，効果的な撮影やレイアウトに努めていきたいと今更のように考えています。

（S）

インフルエンザが流行しています。私も1月に「どんと祭」という裸参りに出て次の日スキーに行ったら風邪でダウン。39度4分の熱にうかされ，5日間寝込んでしまいました。しかし独り者が病気になると悲惨ですね。話す相手もなくテレビだけが友達。おかげですっかり「ひらり」のファンになってしまいました。仙台に来て半年。そろそろ会社と寮との往復から脱却し，プライベートを充実させたいと思っています。（G）

先日行われた別府大分毎日マラソンで，40歳になる宗猛選手が7位入賞と健闘した。36回目のフルマラソンを走り終えた後，「この成績だと兄に怒られる。僕は，兄の夢も背負っているのに」と苦笑していたそうだ。

マラソンは，一人で走っているけれど，ひとりきりではないんだな。みんなの夢や思いが力強い後押しとなって，苦しい坂道も登れるんだなあと思いながら，今月も締切りとにらめっこしています。（M）



あなたが社誌の名付け親！

＜しめきり：2月末日＞



社誌の愛称を募集しています。（詳しくは前月号の表紙のウラを参照）
愛称を採用させていただいた場合には，謝礼を差し上げます。

愛称（ニックネーム）

意味



●所属

●氏名　　●男・女　　●年齢

※裏のアンケートにも記載願います。

今月号の社誌はいかがでしたか？

～みなさんの声をお寄せください～

お寄せいただいたご意見ご要望などを掲載させていただいた場合には，謝礼を差し上げます。

■今月号の中で興味のある記事を選んで，番号を○で囲んでください。（複数可）

1．特集　2．ＣＭ制作の現場から　3．マンスリーＮＥＷＳ
4．GROUPウォッチング　5．ＰＡＬ奮闘記　6．トピックス　7．掲示板
8．コーヒーブレイク　9．定年退職者の方のご紹介　10．気ままにおしゃべり
11．電力需給実績

■今月号の社誌について

企画・内容・レイアウトなど，どんなことでも結構です。
あなたの感じたままをお聞かせください。

■「気ままにおしゃべり FREE TALKING」に原稿をお寄せください。

（テーマは設定していませんので，自由にご寄稿ください）

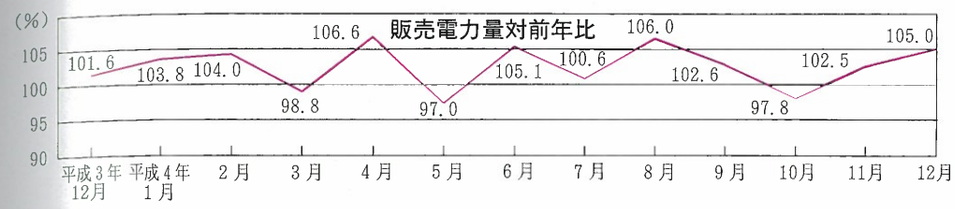
題名（内容に合わせたタイトル）	ペンネーム

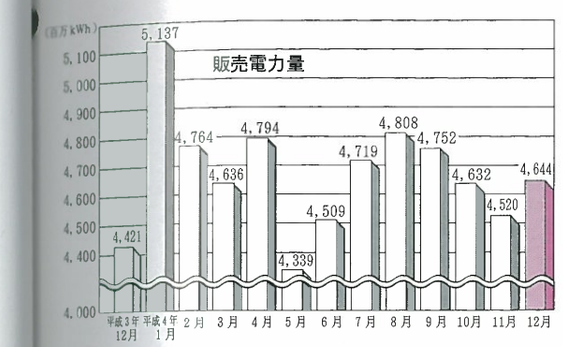
■あてさき　　広報部広報課　社誌担当宛

平成4年12月電力需給実績

大口電力が13か月ぶりに前年実績を上回る

～対前年比100.3%～



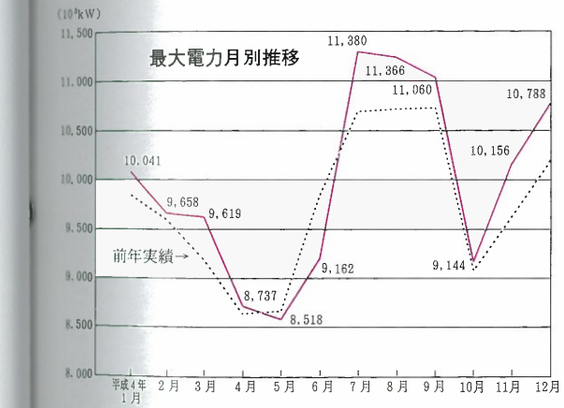


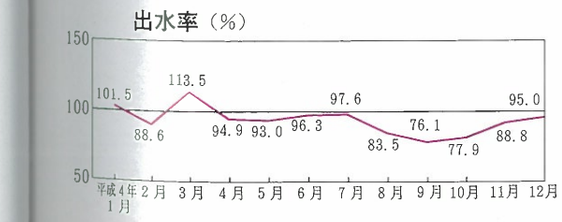
用途別内訳（百万kWh）　（　）内は構成比

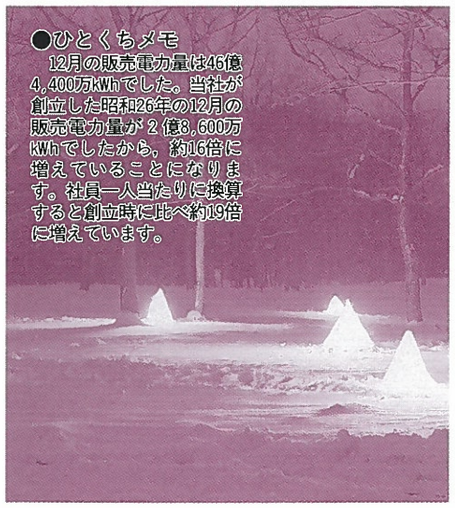
大口	電灯	小口	業務用	その他	合計
1,657 (35.7)	1,362 (29.3)	766 (16.5)	739 (15.9)	120 (2.6)	4,644

エネルギー別発受電力量（百万kWh）
（　）内は構成比

	水力	火力	原子力	合計
4年12月	984 (17.6)	3,695 (66.2)	904 (16.2)	5,583







冬のスナップ



◀送電線の巡視路を確保するための除雪作業。積雪は３ｍにも及ぶ。（青森技術センター）

▼積雪によって，見せかけの道路になっている場合があり，雪上車の誘導は慎重に行う必要がある。



▼スキー場のリフトなどへ電気をお届けするためにふだんにも増した厳しい目で設備点検を行う。（新井営業所）



▼豊実ダムのダムゲートを巡視中の所員。今年は雪が少ないが，長く外にいると体のしんまで冷えてくる。（阿賀野川ダム管理所）

